

お告げのマリア修道会

まごころ会

2024年12月

Tel.095-846-8300

QRコードから
アクセスして
下さい

『わたしは主のはしためです。』

お言葉どおり、この身になりますように。』

聖年が始まります

テーマ

「希望の巡礼者」



地方教会では、12月29日に教区のカテドラルで「聖年開年ミサ」が行われ、2025年12月28日に「聖年閉年ミサ」が行われます。この一年間を聖年として様々な典礼行事と、日々の生活の中で、神様の豊かないづくしみに思いを寄せ、私たちにできることは何かをあらためて考える時とします。教皇フランシスコは聖年の開幕を宣言した時にこのように述べています。

(バチカンニュース参照)

- ① 聖年を主が与える「時代のしるし」を読み取る機会としながら、わたしたちが悪と暴力に打ち負かされたと思ひ込む誘惑に勝つために、今日の世界に存在する善に注意を向けるようにと勧めています。
- ② 神の救いを求める人間の心の願望の中に含まれた「時代のしるし」を見つめ、それを「希望のしるし」に変容するようにと招いています。
- ③ この希望のしるしを通し、戦争の悲劇の只中にある世界に平和がもたらされるようにと希求しています。
- ④ 人々が命の伝承に対する熱意を失っている中で、若い人たちが新しい家族を作る望みを持つるようにと願っています。

⑤ 受刑者たちに希望を、病者たちに寄り添いと慰めを、青少年に支えを、難民・移民に安全の保証と仕事・教育へのアクセスを、高齢者に若者をはじめとする他の世代との絆や理解や励ましをもたらし、生活に最低限必要なもので欠けている貧しい人々への関心を高める機会となるようにと希望しています。

⑥ 地上の富は一部の恵まれた人たちだけのものではなく、すべての人々のものであると強調し、豊かな人々が、助けを必要とする貧しい兄弟姉妹たちに寛大であるようにと呼びかけています。

⑦ お金を武器の調達や戦費に費やさず、飢餓をなくすための世界基金のために使うことを改めて提案。同時に、債務の返済が不可能な貧しい国々への債務帳消しをアピールしています。

聖年の祈り

天の父よ、あなたは、私たちの兄弟、御子イエスにおいて信仰を与え、聖霊によって私たちの心に愛の炎を燃え上がらせて下さいました。この信仰と愛によって、神の国の訪れを待ち望む、祝福に満ちた希望が、私たちのうちに呼び覚まされますように。

あなたの恵みによって、私たちが、福音の種をたゆまず育てる者へと変えられますように。この種によって、新しい天と新しい地への確かな期待をもって、人類とすべてのものが豊かに成長していきますように。そのとき、悪の力は打ち払われ、あなたの栄光が永遠に光り輝きます。聖年の恵みによって、希望の巡礼者である私たちのうちに、天の宝へのあこがれが呼び覚まされ、あがない主の喜びと平和が全世界に行き渡りますように。永遠にほめたたえられる神であるあなたに、栄光と賛美が世々とこしえにありますように。アーメン



ボートによって投錨される予備の錨の「しほ」を「希望の錨」としています。この「しほ」が表すものとして見逃してならないのは、巡礼の旅は個人的なものではなく、共同体的なもので、より一層十字架へと向かっていくダイナミズムも、備えたものだと言いつつです。この十字架は、静的ではなく、動的なものです。人類を捨ておかず、人類に向かって身を伸ばして、存在の確かさを全き希望と与えてくださったもので

希望の巡礼者

2025「聖年」の賛歌

作詞：Pierangelo Sequiri

作曲：Francesco Meneghello

訳詞：日本カトリック司教協議会



きぼうのひかり、かみよあなたにうたいます。



つきぬいのちのいずみ、あなたをしんじます。 *Fine*



1. かみのことはともしび、すべてのひとを照らす。
2. かみはすべてを見まもり、きぼうのあさを告げる。
3. 目をあげ、ともにあゆもう、かみはふたたび来られる。



散らされたひとびとは、み子のもとへとあつめられる。
てん地はあらたにされ、いのちのれいに満ちあふれる。
ひととなられたみ子は、よるこびと一きぼうのみち。

このロゴマークは、地球の四方から集まってきた全人類を4人の図案化された人物によって表現しています。彼らは抱き合っていて、すべての民を結びつける連帯と言いつつ愛を示しています。先頭の人物は十字架をつかんでいます。それは抱いている信仰のしるしであるだけでなく、捨て去ることのない希望のしるしでもあります。なぜなら、希望はいつでも、そして深く困難しているときほど特に求められるものだからです。人物の手に押し寄せられる波は人生の旅がいつも穏やかな歩みであるとは限らないことを示しています。個人的な出来事や世界に起きてくることの多くは、より強く希望を求めさせるものです。ですから、長く伸びて錨の形に変わって波に降ろされていく十字架の下部が強調されているのです。「承知の通り錨は希望の比喩としてよく用いられます。事実船乗りの符牒では風の際に船を安定させるため緊急発動する（上段に「しほ」）

やかに記わたくしませ。

の巡礼者」が緑の文字で鮮

の下部には2025年の

聖年のテーマである「希望

望と与えてくださったもので

です。この十字架は、静

かかっていくダイナミズム

も、備えたものだと言いつつ

です。この十字架は、静

